

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300411		
法人名	九州キリスト教社会福祉事業団		
事業所名	いずみの園グループホーム		
所在地	大分県中津市永添2744		
自己評価作成日	平成30年9月26日	評価結果市町村受理日	平成31年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年10月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの好きなこと、できることに働きかけ、持っている力が十分に発揮でき、楽しみや希望を持ち、その人らしく暮らせるよう支援している。また、職員は日々の関わりを大切にしながら信頼関係を築き、それぞれの得意分野を活かして、楽しみごとやニーズの添ったサービスの提供に努めている。日常支援の中での気付きは職員間で情報共有し、生活の質の向上へ繋げている。ケア理念に基づいた支援を行う中で、職員は定期的に振り返る機会を設け、全員が意識して同じ方向性を持ち、ケアに取り組むように努めている。そして、介護技術の向上、資格取得に取り組み、サービスの向上を目指している。専門職から介護方法やケア環境についてのアドバイスや指導を受け、安全に快適に過ごせる環境作りにも努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その人の望む暮らし方や思いを大切に、利用者が好きなことや出来ることを生かし、その人らしい暮らしができるよう支援している。
- 理念を基にしたケアの共通認識を持ち、ケアの向上に努めている。職員全員のチームワークが良く、速やかな対応で穏やかな日常が過ごせている。職員体制を整え、本人の意向に沿って、毎日の外出支援ができています。
- リハ職派遣事業(市の委託事業)を利用し、専門職からアドバイスや指導を受け、利用者の状況に合わせた安全で快適に過ごせる環境づくりをしている。
- 法人敷地内で行われる毎年の地域合同の盆踊り大会やフェスタなど地域との交流の場になっている。また、事業所として地区の祭りで花づくりや餅つきなど地域の方たちとの交流を大切にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は意識して日常的に取り組めるように、ホールに掲示している。そして定期的に、振り返りと1項目を重点的に取り組む機会を持ち、実践に繋げるように努めている。	理念はホールに掲示して、職員全体に浸透し、共有している。毎月職員で話し合い、6項目の中から1項目を月の目標に掲げ、取り組み実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と合同で毎年盆踊り大会を開催し、地域の祭りの花作りや餅つきに協力している。また、イベントや防災訓練なども地域の方々の協力を得て行っている。	毎年神社の祭りの花作りや餅つきを手伝ったり、地区の敬老会に参加、盆踊り大会、法人でのフェスタ等で地域の方との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、状況報告、支援方法等を報告し、意見交換している。またホームページに取り組みや特色等を掲示し、地域の方々に目にして頂ける場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動、具体的な取り組み等を報告し、地域の理解を得るように努めている。会議で出された意見は運営に取り入れ、サービス向上に努めている。	運営推進会議では事業所の取り組み状況等を報告し、意見交換をしている。そこでの意見は職員間で話し合い、サービス向上に生かしている。委員には他事業所(管理者)の参加もあり意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や中津市GH連絡会(3ヶ月に1回開催)を通して、市の担当者や情報交換の機会を持っている。また、日頃から連絡、相談も行い、協力関係を築いている。	運営推進会議や中津市GH連絡会を通じ、情報交換や提案などを受けている。また、制度や請求時の問題点などの疑問点を相談し、アドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、正しく理解できるよう、定期的に勉強会で学ぶ機会を持ち、意識して取り組んでいる。また、利用者が安全に自由に行動できる環境作りに努めている。	研修が年間計画で生まれ、職員全員が身体拘束について正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。例えば、言葉の拘束についても「待つて」を言わない等を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や園内研修等で学ぶ機会を持っている。また、虐待が見過ごされないよう、定期的に日頃のケアを振り返る機会を持ち、防止に努めている。		

事業者名:いずみの園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修で学ぶ機会があり、必要性がある場合は活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にグループホームの役割や契約内容について十分な説明を行い、同意を得ている。また、必要に応じて、その都度説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等と日頃から信頼関係作り(家族へ定期的に状況報告等)に努め、要望等も伺っている。意見や要望等は、職員間で共有し活かしている。また、運営推進会議で意見や対応策を報告している。	面会時や毎月の状況報告以外にも随時電話連絡にて状況報告し、その際意見・要望も伺っている。出された意見・要望は、職員間で検討しサービスの質の向上につなげている。運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきや意見等は社内メールや、定例会議、業務内で時間を設け意見交換している。また、意見や改善提案は職員間で共有し、運営に反映している。	社内メールや会議等の中で意見・要望を出しやすい環境が作られている。出された意見や提案は定例会議や随時時間を設け検討し、運営に反映している。意見により部屋の掃除の回数を増やすようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や心身の状況について把握するように努めており、意欲や努力を認め、職員がやりがいを持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修や他施設への実習、外部研修等へ参加する機会を設けている。また、段階に応じた研修を定期的に行い、職員の意欲とスキルアップを目指している。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市GH連絡会で、同業者との意見・情報交換等を行い、相互の事業所での課題や取組について共有している。また、職員は他施設への研修、GH合同研修会に参加し、交流の機会を持ち、質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で得た情報と日々の生活状況を職員間で情報共有し、本人の気持ちをしっかり聞き、要望に添うよう努めている。また、ご家族の協力も得ながら、安心できる環境作りと、信頼関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをしっかりと受け止められるように、頻回に連絡を取り、情報交換しながら、信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の実情や要望等をもとに、必要なサービスを見極め、必要に応じて対応している。徐々に生活に馴染めるよう、本人のペースを大切にしながら、関わりを持つように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者各々の個性が発揮できるように、得意なこと、興味のあることに働きかけ、共に協力しながら、自然に支えあえる関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族へ近況報告を行い、本人の要望等も伝えている。また、相談事の助言も頂き、状況に応じて、協力を得ることもある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や自宅への帰宅、病院受診等支援している。また、昔からの友人、知人も訪ねてくることもある。関係が途切れないようにできる限り、希望に添って支援している。	親戚の家や自宅への帰宅支援、家族と馴染みの床屋へ出かけている。また、友人知人の面会時に声掛けするなど馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性と、普段の様子、その時々々の状況を見極め、位置関係に配慮している。食事やティータイム等、皆で過ごす時間を大切に、また、活動を通して利用者間の関わりが増えるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も受け入れ先への訪問等を行い、必要に応じた相談や支援に努めている。また、入院により契約終了した際は退院後の受け入れ先との情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動等、日頃の気付きを職員間で情報共有し、意向の把握に努めている。また、困難な場合は本人がどのように感じているのかを考えながら、思いに添い、暮らしやすいように努めている。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、生活歴やアセスメント、家族からの情報などから職員間で検討し、思いに添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や入居前のサービス利用担当者、関わりの深い方等から情報提供を参考にし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれの視点での気付きを大切に、状況の変化等を日々意見交換や記録等で情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、毎月担当職員のモニタリング、定例会議での意見等、また、専門職からのアドバイス等も反映し、介護計画書を作成している。	担当職員が毎月モニタリングしている。その記録や本人・家族の要望、また専門職のアドバイスにより会議で検討し、現状に即した介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化や気付きは随時個別に記録、または社内メール等にて情報共有しながら、日々の実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、リハ職派遣事業(市の委託事業)により、事業所内の専門職から介護方法やケア環境の見直し等の助言、指導を受けている。また、家族の状況にも柔軟に対応している。		

事業者名:いずみの園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の潜在能力に働きかけ、持っている力が発揮できるように、また、楽しみのある暮らしができるように、各々の意思を尊重しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、主治医は本人、家族の希望で決めている。協力医療機関の定期的な往診、及び主治医への定期受診、突発的な受診等全て支援している。	希望するかかりつけ医に定期受診している。協力機関の往診など適切な医療が受けられる体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務の委託契約をしている訪問看護と連携を図り、日頃の状況や状態の変化、緊急時は相談、連絡、対応や病院受診の必要性についての指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が病院へ付き添い、本人の生活状況や既往歴など伝えている。そして、入院中も定期的に訪問し、情報交換を行い、病院関係者と連絡、調整を行い、早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族や主治医、職員と話し合い、方向性を考えながら支援している。また、事業所としてできることも説明しながら、意向を確認し、方針を共有している。	重度化した場合、家族や主治医、職員と話し合いを行い、最後は本人にとってどうすることが一番良いかを考えながら支援している。また、事業所として出来ることを十分説明しながら方針を共有し、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修や事業所内の勉強会等で急変時の対応や応急手当について学ぶ機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的実施している法人全体での防災訓練には、地域の方も参加し、協力体制を築いている。災害時の備品や食料、飲料等も確保できている。	年2回(昼夜)の防災訓練を法人全体で行っており、地域との協力体制を築いている。法人での協力体制で夜間の人員確保もできている。法人の専用倉庫に食料等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いと本人が理解しやすい言葉使いを意識して対応している。また、定例会議で日々の対応を振り返る機会を持ち、意識を深めている。	マナー向上委員会でテーマに掲げ、月の目標としている。人格を尊重し、丁寧な言葉かけに気を付けて対応している。会議にて振り返りの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、本人の意向を確認しながら支援するように努めている。また、状況に応じて声かけを工夫し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切にし、各々が過ごしやすい場所で過ごしたり、外出等のニーズにも対応し、要望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思を尊重しながら、その人らしい見だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各々が得意な盛り付けや配膳等一緒にいき、月に1回は利用者の要望を取り入れたメニューで食事作りも行っている。また、食事中も楽しい雰囲気作りに努めている。	事業所内で毎食ご飯と汁物を作って、準備等を一緒にしている。誕生月には希望のメニューを取り入れたり、おやつ作りをしている。食事は同じテーブルで職員と会話をしながらゆっくり食べている。太平楽へ全員で食事に出かけ喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録を通して情報共有している。好みの物や習慣を把握し、体調や体重の増減にも気をつけている。また、状況に応じて介助方法等も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄や歯磨き、うがい等の声かけ、見守り、必要に応じて支援している。また、状態に応じた物品の使用と、定期的に義歯の消毒を行い、清潔保持に努めている。		

事業者名:いずみの園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ失敗が減るように、排泄パターンを把握し、随時、定時にトイレ誘導している。また、尿意、便意の意思表示がうまくできない方は表情や行動等を確認しながら、トイレ誘導している。	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。また、排泄のサインを見逃さないよう声掛けし、トイレでの排泄を促し、夜間でも自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、牛乳、ヨーグルトの提供、汁物の具材は水分を多く含む食材を取り入れるようにしている。また、排便状況を確認しながら、必要に応じて腹部マッサージと下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の時間帯で実施。意向を確認し、無理強いくことなく支援している。入浴できない時は清拭、衣類交換を行い、個々に合わせた物品も使用している。	毎日午後いつでも入浴できる体制にしている。声掛けや職員の連携で入浴を楽しめるよう支援している。重度の方にはリフト浴で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、休みたい、また休息が必要だと感じた場合はゆっくり休めるように支援している。夜間、眠れない時は安心して眠れるように個別対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内服薬を把握できるよう説明書は個別のファイルに綴じている。状態の変化は情報共有し、健康管理に努めている。服薬確認は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持てるように、食事作りや洗濯物たたみ等得意なこと、好きなことに働きかけ、張りのある暮らしができるように支援している。また、各々が嗜好品を楽しめるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数であるが、毎日2回外出支援し、気候が良い時は周辺を散歩している。また、本人や家族の要望に添って、自宅等へ外出支援している。	午後からいつでも外出できる体制ができており、希望に応じて散歩やドライブと毎日2回出かけている。また家族が会いたいとの要望に自宅での面会支援をしたり、桜やコスモス、菊花展などにも出かけている。	



事業者名:いずみの園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が支援しているが、自分で買い物をする機会もあり、その際は預かり金より渡している。お金を持ちたいという欲求には柔軟に対応し、用途は預かり金入金簿に記載し、家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届くとお渡した後、了承を得て職員と一緒に読むこともある。電話がかかったり、かける要望がある際は取り次いでいる。また、家族が遠方の方は本人に働きかけ、定期的に電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、四季折々のあたたかみのある空間作りと、季節を感じながら、穏やかに居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	テーブルと畳の部屋、ソファやいすの部屋と2つの居間があり、懐かしい電話機や絵画、季節の花が飾られ、落ち着いた空間になっている。思い思いの場所で居心地よくまた安心して過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所を中心して両サイドに共用空間があり、好きな場所で一人でゆっくり過ごしたり、椅子等の配置を工夫し、気の合う利用者同士で過ごすことができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや、好みのもを自宅から持ち込み、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	本人や家族と相談し、テレビやテーブル、イスを持参し、畳の部屋など一人ひとりの希望の部屋作りがされており、家族の写真や花等を飾り居心地の良い部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら、理解しやすい環境作りに努めている。居室入口には自分の名前を確認できるように氏名を記載、または目印となるような飾りつけをして区別がつくように工夫している。		